

研究課題名 初期経験的抗菌治療薬選択のガイドラインのアドヒアランス向上のための課題の抽出

#### 出と検討

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗

研究期間 2021年5月14日（倫理委員会承認後）～ 2024年3月31日

#### 対象者

2021年5月14日（承認日）～2022年3月31日の間に広島大学病院の高度救命救急センターまたはICU病棟に入室となった患者で敗血症、敗血症性ショックもしくはそれらの疑いと診断され、初期経験的抗菌治療が行われた患者さん。ならびに、同患者に対する初期経験的抗菌治療薬を選択した医師。

#### 意義・目的

感染症診療にあたっては感染巣を特定し、患者背景を加味して原因微生物に対する抗菌治療を行います。特に敗血症を含む重症患者においては、治療開始までの時間が患者さんの予後に影響するため、原因菌未同定の状況でも経験的抗菌治療の開始が必要な場合があります。一方で、カルバペネム薬や抗メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)薬といった広域スペクトラム抗菌薬の不適切に過剰な使用は耐性菌の増加・抗菌薬関連の副作用・コスト上昇のリスクが懸念されています。また、薬剤耐性菌の増加と将来への懸念を背景に平成27年に「薬剤耐性菌対策に関する提言」が発出、平成30、年度診療報酬改定で、従来の感染制御チームに加え、抗菌薬適正使用支援プログラム(antimicrobial stewardship programs: ASP)を実践する抗菌薬適正使用支援チームの設置など、抗菌薬適正使用支援体制が世界的に推進されており、経験的治療に対する抗菌薬の選択はASPの観点からも適切化が望まれています。

14日以内の抗菌薬投与，14日以内の手術，主担当科，積極的治療差し控え方針の有無，血清 Cre

<感染症>

[Redacted Table Content]

〒734-8551，広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5456

広島大学病院 救急集中治療科 夜間・休日診療医 石井 潤貴